

平成18年度実績評価事務事業進行管理表

事務事業名	伊那人形芝居振興事業				財務会計上の位置付け	会計	款	項	目	細目	細々目	19予算額(千円)
部等名	教育委員会	課等名	文化会館		包含する細々目	1	10	5	7	13	8	2,713
政策	6 地域の自然・歴史・文化を活かし続けるまちづくり											
施策	63 地域資産の保存継承											
実施区分	継続	会計	一般会計	環境調整会議	不要	関連計画 条例等						
		事業期間	S59	年度～	年度							

【Do】(1)この事務事業は次の目的を達成することを目指します。

目的の記述	対象(人や物、自然資源など)	対象の大きさを表す対象指標名と単位	対象指標の数値			
	伊那人形芝居保存協議会傘下の各保存会の人形浄瑠璃関係者	地元の人形劇団数(箕輪町の古田、阿南町の早稲田を含む)	現状又は19年度見込	23年度又は終了年度		23年度以前に終了は終了年度とする
			4			
	現状又は19年度見込	23年度又は終了年度				
意図(成果は何か、対象をどうかえるか)	成果達成度を表す成果指標名と算定式・単位	成果指標の数値(実績・目標)				
飯田下伊那には人形浄瑠璃の義太夫師、三味線の師匠、人形操りの講師がいないため、年々技術の低下が進行する中、国の補助を得て、技量の向上を図ることを目的に4座が共同して研修を受けているが、上演出来なかった外題にも取り組むなど、技術の向上と幅広い上演可能作品拡大などが進んでいる。	人形劇指導・講座の受講者数	18目標	28	最終目標	17	
		18実績	244	19目標	300	
	23目標		23実績		最終目標達成年度	
	全受講者のうち人形劇技術が向上した受講者の割合	18目標	70	最終目標	280	17
		18実績	200	19目標		↑
		23目標		23実績		最終目標達成年度

(2)意図を達成するために以下のことを取り組みます。

手段の記述	事業の全体概要(補足説明)	具体的活動内容(やり方、手順、詳細)	活動量を表す名称・単位	活動量の値
	伊那谷四座と呼ばれる今田人形座(飯田市)、黒田人形保存会(飯田市)、古田人形保存会(箕輪町)、早稲田人形保存会(阿南町)の保存継承のために、国及び県の補助金を得て、また関係市町がそれぞれに座の数に相当する負担金を拠出して実施している事業で、四座の所在する市町が2年ごとに事務局を担当している。平成17年度から20年度(飯田市には2座あるので、4年間事務局を担当する。)は飯田市がその事務局を担当することになっている。国の補助金による事業名は、「国宝重要文化財等保存整備事業」で、平成14年度から17年度までの4ヶ年事業である。平成17年度はその最終年度として、次の事業を計画している。 1. 4座の共同事業として、義太夫・三味線・人形操りの研修事業 2. 伝統人形芝居の伝承のための人形浄瑠璃台本の口語訳事業	1. 義太夫研修事業 2. 三味線研修事業 3. 人形操り研修事業	研修日数(義太夫、人形操り及び三味線の研修は各1回あたり4日間の研修日を設けている)	28日
	18年度の実績	本事業に関わる補助は平成17年度をもって終了となる。19年度以後については、18年度中に長野県を通して文化庁に申請する。本事業の補助が不採択となった場合は、3市町の負担金の範囲内で研修事業を続けていく。	研修日数(義太夫、人形操り及び三味線の研修は各1回あたり4日間の研修日を設けている)	36日
	19年度計画			

<金額の単位:千円>		18決算額(見込)	19予算額(当初)
事業費	特定		
	国庫支出金		1,355
	県支出金		250
	起債		
	その他	500	500
一般財源	640	608	
事業費計(A)	1,140	2,713	
人件費	正規職員所要時間	18年度	19年度
	臨時職員等所要時間	64	48
	人件費計(B)	69	52
	トータルコストA+B	1,209	2,765

特定財源内訳や補足事項	国宝重要文化財等保存整備事業(国庫支出金)1250 伊那人形芝居保存協議会県補助金250 伊那人形芝居保存協議会負担金(阿南町250+箕輪町250) 学校への芸術家等派遣事業(国庫支出金)105
-------------	---

(3)この事業目的の達成は、次の上位(施策や主体の役割)目的の達成に結びつきます。

目的の記述	結果 この事務事業の施策(基本事業)の目的	上位成果指標(施策又はムトス指標)と単位	上位成果指標の数値			
	伝統人形劇が保存・継承される	保存・継承されている人形座の数	現状値		19実績	
			20実績		21実績	
				22実績	23目標	
			現状値	436	19実績	
			20実績		21実績	
		22実績		23目標	520	

この事業を開始したきっかけ	事業を取り巻く状況の変化	事業に対する市民や議会の意見
昭和40年代、伝統人形浄瑠璃は風前の灯火の状態にあった。後継者不足、資金不足、観客激減、娯楽の多様化などにより、伝統人形浄瑠璃は最早見向きもされない状態にあった。そんな中、個々の座が別々に活動していても決して保存継承の道が開かれなと感じ、共同して研修を受けるなどの活動を行うにいたった。そして、伝統文化の保存に対する国の補助を求め、5次にわたる補助事業を実施することが出来るようになった。	この事業は、地域の伝統文化活動として、終わりのない研修である。しかし、ただ過去の外題を踏襲する研修だけでなく、今田人形座では「小太郎物語」のような新しい作品を生みだしているばかりでなく、飯田下伊那ちいきのみならず、東京や大阪、浜松市、新城市など各地からの上演依頼が来るようになるなど、取り巻く環境は最悪の時代を乗り越えてきた。しかし、この研修事業は常に技術を磨き、地域の誇るべき芸能として継承をしていくために今後も不可欠のものとする。	「人形劇のまちづくり」を市の基本構想にとうたっているとおり、飯田市になくてはならない伝統人形浄瑠璃の保存継承については、市民や議会にも広く理解されている。

## 【See】18年度の振り返り

目的妥当性評価	この事業の意図の達成が、結果(上位目的)に結びついていますか？	(評価) 結びつく (その理由)	有効性評価	成果をさらに向上させる余地がありますか？	(評価) 余地がある (その理由)
	対象の見直し、拡大、縮小の必要性はありますか？	(評価) 必要性がない (その理由)		廃止・休止した場合の影響はありますか？	(評価) 影響あり (その理由)
	意図の見直しの必要性はありますか？	(評価) 必要性がない (その理由)		他に類似事業はありますか？また統合の可能性はありますか(市以外の取組も含む)	(評価) 類似事業なし (類似事業名、理由)
	市が関与する必要性はありますか？(市が税金を投入すべき事業ですか)	(評価) 必要ある (その理由)		成果を下げずに、事業費や人件費の削減は可能ですか？	(評価) 不可能 (その理由)
			公平性評価	受益者は誰ですか？また、負担の是非、程度は妥当ですか？	(評価) 妥当である (受益者とその理由)

## 【Plan】改革改善

今後の事業の方向性	何を、いつまでにどうするのかの改革改善案
<input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的見直し <input type="checkbox"/> 別事業に統合 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	演目の口語訳本の作成(伊那人形保存協議会で作成する) *1外題(生写朝顔話)×1冊200円×300部作成 *高陵中学校・竜峡中学校(飯田市)、箕輪中学校(箕輪町)、阿南第中学校(阿南町)で国語教材などで古典的内容・郷土学習の教材として活用する。
上記の改革改善案を実施する際、想定される課題とその克服方法	学校教育(古典・郷土学習)で実際活用できるようにするにはどうしたらいいか。単なる国語・古典学習での活用ではなく、地域の貴重な伝統芸能である人形浄瑠璃について、総合学習などの中で地域・郷土として位置付けて活用する。

### 【補足事項環境側面】

(1) 環境影響評価の必要性判断	必要性がない	(2) 必要性な場合の実施事由
(3) どのような点に配慮し事業に取り組みましたか？		

### 【指摘事項】

施策マネジメント会議	
施策評価会議	
第5次基本構想基本計画推進委員会	